

北大形成外科

# アカデミー

2020.11.28(sat)

15:00-16:45

京王プラザホテル札幌

## Session 1

### 北成賞2020受賞記念講演

〈臨床研究者部門〉

舟山恵美

〈基礎研究者部門〉

石川耕資

〈基礎研究論文部門〉

藤田宗純

〈若手研究者部門 "La Primavera"〉

伊藤梨里

## Session 2

### 大学院生研究発表

❖羊膜由来間葉系幹細胞を用いた糖尿病潰瘍の治療法の開発

高橋周子

❖羊膜由来間葉系幹細胞の線維化抑制作用による移植脂肪生着向上効果の検証

伊藤梨里

❖Vascularizedリンパ節移植の基礎的エビデンス構築の貢献を目指して

草島英梨香

❖顔面神経麻痺のラットモデルによる新たな評価法確立とハイブリッド神経の開発に向けて

三浦隆洋

❖内臓脂肪を用いたリンパ組織移植の研究

北條正洋

❖低酸素応答システム活性化薬剤を用いた下肢慢性創傷の研究

星野善允

## Session 3

### 特別セミナー

### 旭川医科大学形成外科教授選考セミナー2020

北海道大学病院 形成外科 客員臨床教授

林 利彦



代 表：山本有平

事 務 局： 北海道大学医学部形成外科学教室

〒060-8638 札幌市北区北15条西7丁目

e-mail : info@prs-hokudai.jp

運営委員長：林 利彦

# PROGRAM

## Session 1

北成賞2020受賞記念講演 (15:00~15:20) 5分×4  
Moderator : 林 利彦

〈臨床研究者部門〉

舟山恵美

『外科的治療が躊躇される部位における中等度サイズの色素性母斑に対する複合レーザー治療』

従来、当科では巨大色素性母斑に対して複合レーザー治療を行なっているが、外科的切除が躊躇される解剖学的ランドマークとされる部位（乳輪乳頭、眉毛、耳介、口唇、鼻等）における色素性母斑に対してもこの方法は有効な治療オプションあることを報告する。

『術前nasal stentと術後レチナの鼻形態の対称性の比較検討』

片側唇頬口蓋裂症例の鼻形態のsymmetry獲得のため、初回口唇形成時期に行われる非侵襲的治療方法として、術前 nasal stentingと術後レチナ装着が挙げられる。今回この2つの方法について比較検討した。

〈基礎研究者部門〉

石川耕資

このたび北成賞「基礎研究者部門」の栄誉を賜りましたこと、大変光榮に存じます。当教室で継続的に研究されてきた、マウスを用いたリンパ節移植の基礎研究となります。新たなマウスVascularizedリンパ節移植モデルを開発し、移植リンパ節への血流およびリンパ流が移植リンパ節の高内皮細静脈の維持に重要であることを示しました。この受賞を励みに、今後も当教室の基礎研究発展に尽力していく所存です。

〈基礎研究論文部門〉

藤田宗純

このたび北成賞「基礎研究論文部門」の栄誉を賜りまして大変光榮に存じます。ご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。「ケロイドの慢性炎症の原因は何か」、「ケロイド体質とは何か」、この2つの疑問を遺伝子・免疫の観点から明らかにする研究に取り組んでまいりました。これらを明らかにする一助となった論文であると自負しております。本講演では論文の内容について要点をご報告いたします。

〈若手研究者部門 “La Primavera”〉

伊藤梨里

このたびは北成賞若手研究者部門受賞の栄誉に与り、大変うれしく思っております。今回私は、顎顔面領域の比較的稀な先天性疾患において眼球運動障害および鼻部正中の異常骨形成を呈した症例についての一例報告と、上眼瞼全層欠損に対するドナーの犠牲の少ない余剰皮膚を用いた再建方法について報告しました。ご指導頂きました先生方にこの場をお借りして深く感謝申し上げます。

## Session 2

大学院生研究発表

(15:25~16:05) 7分×4  
5分×2  
Moderator : 前田 拓

羊膜由来間葉系幹細胞を用いた糖尿病潰瘍の治療法の開発

高橋周子

間葉系幹細胞は免疫調整、抗炎症、血管新生など様々なパラクリーン作用を持ち、難治性潰瘍の治療への応用も期待される。また、これらの作用は低酸素により亢進することも知られている。我々は、低酸素培養した羊膜由来間葉系幹細胞の培養上清を糖尿病マウスの皮膚潰瘍に外用し、創傷治癒が促進されることを示した。

羊膜由来間葉系幹細胞の線維化抑制作用による移植脂肪生着向上効果の検証

伊藤梨里

様々な細胞への分化能、各種増殖因子などのサイトカインの分泌能を持つ間葉系幹細胞は、現在注目されている再生医療のソースである。の中でも分娩時に破棄する胎盤から大量に採取可能な羊膜由来間葉系幹細胞を用いて、脂肪移植時の生着率向上を目指し、検証を行なっている。今までに得られた知見について報告する。

Vascularizedリンパ節移植の基礎的エビデンス構築の貢献を目指して

草島英梨香

重症リンパ浮腫に対する治療として血管柄付リンパ節移植の有用性が近年報告されている。臨床ではまだ限られた施設での治療選択肢に過ぎないが、当教室ではかねてよりリンパ節移植後の循環系・免疫系の機能改善に着目し基礎実験を重ねている。「血管柄付リンパ節移植はメラノーマの増殖・転移を抑制するか?」をテーマに学位研究を行なっており、その一部を報告する。

顔面神経麻痺のラットモデルによる新たな評価法確立とハイブリッド神経の開発に向けて

三浦隆洋

近年、Gapのある末梢神経損傷に対し、ドナー犠牲のない人工神経の使用が進んできている。しかし人工神経は、特に運動神経において成績が不十分とされる。我々はまず客觀性・再現性のある新たな顔面神経麻痺のラットモデルにおける評価法を確立し、その評価法を用いて人工神経の有用性について検証を行なっている。得られた知見につき報告する。

内臓脂肪を用いたリンパ組織移植の研究

北條正洋

大網組織は、その豊富な血流と形態から複雑な欠損の再建材料として使用され、近年ではリンパ浮腫に対する効果も報告されている。今回我々は、2次リンパ組織である内臓脂肪として大網に着目し、マウスを用いてリンパ組織移植モデルを作成し、検証している。これまでに得られた知見について報告する。

低酸素応答システム活性化薬剤を用いた下肢慢性創傷の研究

星野善允

低酸素応答因子であるHIF-1 $\alpha$ は、様々な遺伝子、タンパク質の発現に関わる因子として注目されており、難治性潰瘍の治療への応用も期待される。我々は、リンパ浮腫モデルにHIF-1 $\alpha$ 活性化薬および阻害薬を作用させ、創傷治癒への影響を検証している。本研究の概要について発表する。

## Session 3

特別セミナー

(16:15~16:45) 30分  
Moderator : 舟山恵美

旭川医科大学形成外科教授選考セミナー2020

北海道大学病院 形成外科 客員臨床教授 林 利彦